

令和4年(2022年)9月15日(木)

教育局学び推進課

むすびつくば協働事業の事業主体による自己評価

1 実施目的

令和2年10月から令和4年3月まで民間事業者との協働事業として実施した公設の不登校児童生徒学習支援施設「むすびつくば」について、各事業主体が、それぞれの視点で事業を評価し、協働事業の検証材料とする。

2 自己評価内容

(1) 評価対象期間 令和2年(2020年)10月1日～令和4年(2022年)3月31日

(2) 評価方法 各事業主体が、協働事業の仕様書に基づいた事業の遂行状況について自己評価を行うとともに、事業の成果、課題等を確認する。

(3) 評価の基準 事業における実施項目ごとに、達成度を5段階で評価する。

3 自己評価結果

(1) 特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所による自己評価 P1～P14

(2) つくば市による自己評価 P15～P16

協働実証事業 事業者自己評価シート

事業名 つくば市不登校児童生徒学習支援事業

事業(評価対象)期間 令和2年(2020年)10月1日から令和4年(2022年)3月31日

記載団体 認定特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所

※ 評価点(5段階)の基準

5点:十分に達成できた 4点:概ね達成できた
 3点:達成できた部分もあるが、課題も多く残った
 2点:一部達成できたが、さらなる取り組みを要する 1点:達成できなかった

1 公民協働の観点から

① つくば市と事業者で事業の目的は共有できたか

1

目的を共有するところから事業が始まるものと認識していたが、教育局と協議をする機会がないままに目的を提示された。当方から提案もしたが、それについて回答はなく、話し合いの場がもたれることもなかった。

② つくば市と事業者の役割分担は適切にできたか

2

事業開始の準備段階では、双方が手探りながらも役割を分担し環境整備にあたったが、その後については、仕様書にも教育局の役割分担が明示されていなかった。「役割分担」についても、協議の時間をもちたかった。子どもたちの出席状況、不審者情報なども含め、学校との連携について教育委員会の協力を得られればもう少しスムーズに進められたのではないかと感じる。

③ 意思の疎通が図られたか

3

意思疎通の機会があったが、話し合われたことが具体的に課題解決・改善までには至らなかった。確認したことが相談なく変更となることがあった。教育相談センター(つくしの広場)の担当者とは各一度ずつ相互を訪問する機会があったが、事業の目的などについて共通理解は十分でなかったと思える。教室の様子を見ていただく機会もなく、保護者の声を聞く機会も設けられなかった。

④ 対等であることを理解し、良好で持続可能な関係を築き事業を実施できたか

1

協働実証事業として始まったはずであったが、そもそも協働という認識に乏しかったように感じられた。①②でも触れたように事業の目的や役割分担が協議される機会がもたれなかったこと、また、振り返りが行われることもなく2022年度の仕様書が作成されるなどしたことから、良好で継続的な関係は築けていなかったと感じる。

⑤ 市民サービスの向上が果たせたか。また、相乗効果・波及効果が得られたか

3

より多くの児童生徒が、より少ない負担で学びと育ちの機会を得ることができた点においてサービスの向上ができた。一方、定員を超えて希望者が集まったことから、入所まで長く待ついただく事態にもなった。

新たな支援方法に関して、研修機会や教材・指導方法のフィードバックを提案したが回答がないままに終わっているなど学校教育の現場や関係機関との相乗効果や波及効果までには至っていない。

2 事業実施概況

① スタッフ間で事業の目的・目標を共有できていたか

4

スタッフ間では日々の打ち合わせや振り返りを重ね、目的・目標を大方確認、共有できていた。

② スケジュール通りに実施できたか

5

コロナ禍の影響により体験活動の機会を一部見送るなどしたことを除けば、スケジュール通りに開所できた。臨時休業中には、オンライン教室を開くなど工夫した。

③ 実施にあたり事業費積算は妥当だったか

1

事業開始にあたって、2020年度は備品費が積算されていなかった。教科学習支援にあたるスタッフは教職員免許保持者であることといった説明もあったが、それにふさわしい人件費が積算されていたとは思えない。仕様書には相談業務が記載されているにもかかわらず、そのための経費は確保できなかったという説明でもあった。事業規模から考えれば事務員の配置も必須と考えるが、それらについてはまったく考慮されていなかった。

④ 運営体制を整えることができたか

3

常勤スタッフもいれば、週1日勤務のスタッフもいる中で、仕事の分担、連絡調整も難しく、事務スタッフを配置できないなども非常に厳しい状況だったが、同一地域内で活動する団体や個人の協力も得ながら何とか体制を整えることができた。

⑤ 受益者（市民）の満足度は十分に図られたか

5

2021年末、2022年初の個別面談では、特に改善点を指摘する声もなく、この度、外部の専門家に協力を依頼した聞き取り調査からも満足度の高さがうかがえた。

3 仕様書・事業内容に示された項目について

① 学習支援活動は適切に実施できたか

5

活動全体を通して、広い意味での学びを計画的にサポートできた。
子どもたち一人一人の希望や到達度に寄り添い、苦手意識が強く、いわゆる教科学習には拒否反応を示す児童生徒には、読み聞かせや遊びの中での学びの時間を設けるなどした。
コロナ禍で体験的な学びの機会は制限を受けたが、絵画造形の時間などでの自己表現活動やスポーツの時間などで力を合わせる経験などを通して、全人格的な成長を支えることができた。

② 新たな支援方法を構築できたか

5

読み書きに特異な困難を示す児童生徒が複数在籍したが、教科学習に際しては、独自に開発した教材を活用するなどして、苦手を補う工夫とともに得意を伸ばすことに努めた。特に書くことに拒否反応を示す子には、ICT機器を活用するなどして、成果をあげることができた。
『勉強にはいろんなやり方があるって、(略)「書いて覚えなくてもいいんだよ」(略)「人それぞれ、自分1人1人に合う勉強の仕方があるって、その勉強の仕方であればいいんだよ」って言われたのがすごく救いだった』などの声もあった。

③ 安心して過ごせる環境を創出できたか

5

備品の配置も子ども目線であることを心がけ、子どもたちと話し合いながら環境づくりをしてきた。また、1人ひとりの個性をポジティブにとらえ、一人ひとりの心に寄り添うように努めた結果、子どもたちや保護者を対象におこなったヒアリング調査でも「先生たちがちゃんと話聞いてくれるので（略）、言えないことをちょっとずつ言えるようになった」「ここでは 子供はどう考えているんだろうみたいな感じのことをまず考えてくださるので、子供はすごく安心感があると思う」「子供の安心安全を1番に考えてくださるので（略）、1人1人のこの子にとっての安全はこれ、この子にとっての安全はこれって先生方がすごく詳しく見てくださってるので、その子供の安心安全を守るっていうことを最優先にするっていうのを継続してもらいたい」などの声が多数寄せられた。音や光に敏感さを訴えていた子どもも普段通り過ごす様子が見られた。

④ 教育相談は適切に実施できたか

5

保護者を対象とした教育相談は、つくば子どもと教育相談センターに協力いただき、実施した。好評を得ており、予約も早々に埋まるようになってきている。スタッフとのコミュニケーションを重ねることで、子どもたちの支援に生かすこともできた。

⑤ 学び推進課、教育相談センターおよび在籍校との連携はできたか

2

所属校には毎月、出席日数、活動状況を報告した。子どもの様子で共有したい事項があるときに、なかなか電話が繋がらないことが多かったが、一部、担任の先生がむすびつくばを直に訪れコミュニケーションを重ねた学校では、児童の言動に大きな成長が見られたケースもあった。

⑥ 安全管理は適切であったか

3

スタッフ研修にも救命救急講習などを取り入れ、室内の清掃、消毒にも注意を払った結果、新型コロナウイルス等の集団感染を防ぐことができた。しかし慣れからくる気のゆるみから、換気を忘れてしまうこともあった。また、防犯用具の準備も十分にできていなかった。医療個票で子どもたちの健康状況を把握したり緊急時の連絡先を確認するなどしたが、不審者情報等の共有も含め、在籍校との連携が課題として残った。校医も依頼できていない。

⑦ スタッフの研修の機会を確保できたか

5

毎朝、毎夕、子どもたちの言動を振り返り、その時々スタッフの対応を互いにアセスメントすることで、ひとりよがりや思い込みによる善意の押しつけにならないように努めた。また、非常勤のスタッフも含めて、毎月、原則第3水曜日には全員が顔を合わせてのミーティングを持ち、そのうち2か月に1回は研修の機会を持った。限られた予算と時間の中で、外部講師を招いての研修以外に他団体が主催する研修会にも参加した。

⑧ 期限までに書類の提出はできたか、また、手続きで改善すべき点はあったか

3

書類はあらかじめ期限内に提出できたが、定員が当初の15名から40名に増えたこともあり、事務の負担が大きかった。押印の省略、電子化など改善を要する部分もあった。

4 その他

・現在地は駅から近いという利点はあるが、水場、音響などで課題がある。受け入れ人数が増え、さらに子どもたちが元気を取り戻すにつれ、音に敏感な子からは、「教室が賑やかすぎる。もっと広いほうが良い」という声も上がるようになってきている。
・屋外に植物を育てたり、体を動かすなどできる場所がないために、室内で過ごす時間が長くなった。
・仕様書には「個別指導計画（IEP）の立案」が記載されているが、子どもたちやその保護者、さらに学級担任との相談も機会を設けることが難しかった。SCやSSWなどの専門スタッフの配置を希望する。
・学校のあり方も含め、市全体としての子育て支援計画を共有したい。

° ~ ±

ú

G

H

T U

Å Ç Æ

G

ú H

ú

G

H

2 10

÷

÷

÷

ï ï þ ÷

ï °

ú ï þ

÷

÷

ï

ú

þ

°

T U

I

4 6 27 () 3 4 7 - () 15 3 30

I

2 3 ú ï 10

I

ú

. I ÷

. I

	4; 2022<	ú	
		2020	2021
I	2 w	3	-
J	2 w	3	-
K	2 w	3	-
L	2	1	2
M	2	1	2
N	2	1	2
O	2	1	2
P	2	6	1
Q	2	6	1
R	2	5	6

r

°, ú ï ÿ ï ö fi; ÿ ï ö fi <

°, ú þ ÷ ø ö fi

±, ú ÷ þ ï ï ñ þ í ö fi

², ó ö ø ï þ ÷ í ó ú ï °

